

回答順	回答日	1 遠隔授業		2 学外実習		3 学内実習				4 その他
		1. 実施 2. 実施の方 向で準備 3. 実施予定 なし	問題点・疑問	1. 予定通り 実施 2. 延期・中 断・短縮 3. 中止	問題点・疑問	3-1 学内実習施設		3-2 実習(学内施設実習)		
						1. 通常開室 2. 短縮・臨 時対応 3. 休室 4. 学内実習 施設なし	問題点・疑問	1. 予定通り 実施 2. 延期・中 断・短縮 3. 中止 4. 学内施設 実習なし	問題点・疑問	
58	6/17	1	<ul style="list-style-type: none"> 6月8日より、実習、演習で対面授業の必要な授業については対面授業を実施しています。 これを受けて、スケジューリングで苦勞するケースがあります。 	2		3	<ul style="list-style-type: none"> 6月15日より開室しました。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 6月15日より開室し、実習も再開しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 学外実習先の指導者に来学、あるいはオンラインでの授業を検討し、学園からも予算的補助があります。 ※ 第2報(第1報は回答順No.50)
57	6/16	1	<ul style="list-style-type: none"> スマホでの視聴など情報環境が不十分な学生・院生がおり情報保障が不十分である プリンターを所持していない学生・院生がおり、資料がない状態で受講している 学部講義では学生はビデオ参加しないため、学生の理解度がつかめない 心理検査や面接指導など遠隔授業では検査キットの活用や十分なフォローができず、実施が難しい。また、遠隔授業で実施しようとする教育内容が制限される セキュリティの問題から事例検討などを行うことができず、教育内容が制限される 	2	<ul style="list-style-type: none"> 各実習施設も今後の状況の見通しが立たないため、実習に向けての話し合いや準備を具体的に進めにくい。 加入している保険でカバーできない事象への懸念がある(実習生の感染が判明した場合など)。 実習中止・延期となった施設が複数あり、実習時間を十分に確保できない可能性がある。延期となった場合も後期に実習可能か見通しが困難である。 今後について、オンラインでの実習なども代案として考えられるが、先方の環境整備や新たな取組を早急に進める必要性など、課題が多い。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 5月末まで休室し、6月から開室 感染予防として、手指消毒・マスク着用・換気徹底・空気清浄機設置等々を行っているが、面接室は密室のため、心配は尽きない。 マスクを着用して面接をすることへの抵抗や、プレイセラピーは子どもとより密接な距離で接することになるうえ、共有の玩具を使用していることでリスクが高まることの問題。 来談者に対して、来室前の検温、風邪症状、発熱のある場合、来室を控えることをお願いをしているが、強制力はない。 来談者に対して、待合 	2	<ul style="list-style-type: none"> 面接の構造上、接触や距離の確保は基本的に困難であり、クライアントに安心して来談していただけるための環境整備にも限界がある。特にプレイセラピーについては、配慮が難しい部分もあり、中断か継続かの判断が難しい。 実習生同士のコミュニケーションなどにも制限がかかり、従来に比べ、実習生相互の学びが阻害される懸念がある。 状況への見通しを持っていないことが、面接構造に大きく影響することが考えられるが、それをどのように指導し、サポートしていくか、教員 	<ul style="list-style-type: none"> 大学院で2年間で450時間以上の実習ができるのか、十分な実習経験ができるのかなど院生の不安が高まっている。実習の振り替えなどについて検討しているが、各大学で検討するだけではなく、ある程度の指針があるとよい。 新型コロナウイルス感染症が大学の保険適用の事由でないため、実習の再開に慎重にならざるを得ない。

			<ul style="list-style-type: none"> 通信障害等への対応として、録画、ダウンロードなど教員の負担が増えている 				<ul style="list-style-type: none"> 室の混雑回避への協力依頼(車の中で待つなど)、相談者以外のきょうだい等の同伴者の入室を断るなど不便をかける。 万が一感染者が出たときには、保健所や大学に利用者リストを提供しなければならなくなることを想定されることの説明をし、同意書に署名をもらう対応を進めているが、守秘義務との間で葛藤がある。 学内実習施設の構造的な問題(狭さ・窓のない部屋がある)のため、学生や教員・研究員の控室が時間によっては密になる。 		<ul style="list-style-type: none"> 側も未曾有の事態のため、手探りで進めていかねばならない。 閉室期間の影響により、継続面接の中断の可能性や、インテーク数の減少など、実習時間の十分な確保が難しい可能性がある。 	
56	6/5	1		1	<ul style="list-style-type: none"> 選択肢に適切なものはありませんでしたので、一応「1」としました。 	1		1		※ 第2報(第1報は回答順No.2)
55	6/5	1	<ul style="list-style-type: none"> 貸出機器の不足 	3		4		4		
54	5/16	2	<ul style="list-style-type: none"> 前期授業については遠隔授業を予定している。大学院ではZoomを中心とした授業を予定し、学部ではオンデマンドを中心とした授業を予定しているが、ネット環境の整備や機材購入による負担が学生教員ともにかかっている。ロールプレイやカンファレンスについて実施は可能か、相互交流をスムーズに行う工夫は何かあるか検討し 	2	<ul style="list-style-type: none"> 前期については遠隔授業を予定している。大学院ではZoomを中心とした授業を予定し、学部ではオンデマンドを中心とした授業を予定しているが、ネット環境の整備や機材購入による負担が学生教員ともにかかっている。ロールプレイやカンファレンスについて実施は可能か、相互交流をスムーズに行う工夫は何かあるか検 	3	<ul style="list-style-type: none"> 大学院附属相談センターは、学生の構内立入禁止に伴い、新規受付休止・面接延期を続けている。必要に応じて各ケース30分程度の電話対応を実施しているが、面接再開の目処が立っていない。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習やセンター活動のレクチャーなどは遠隔(大学院では主にZoom)で実施を予定しているが、それ以上の演習・実習活動は停止もしくは延期している。体験を伴う実習やワークをどのようにできるか検討を続けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生の体験学習や臨床経験の不足について懸念している。代替の実習については現在検討を続けている。現時点では、過去の実習体験やケースを振り返るスーパーヴィジョン、ケースカンファレンス、レポート課題(例:今の生活をどのようにするか)などの案が出ており、実践に近いものに

			ている。		討している。					なるよう進めたい。 <ul style="list-style-type: none"> 学部も大学院も、規定の時間数をどのように満たすかの目途が立ちにくく、懸案事項となっている。
53	5/8	1		2		3		2	<ul style="list-style-type: none"> 疑問ではありませんが、2 に回答した詳細を申し上げます。 2 週間開始を遅らせ、オンラインで実施しています。 	
52	5/6	2	<ul style="list-style-type: none"> 動画教材をアップロードする学内の専用 Web サイトのサーバに限界が来ている可能性がある点です。また、実践を取り入れた授業に関しては遠隔授業での実施が困難な場合が多分にある点です。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 再開の目途が立たず、公認心理師受験資格取得に必要な時間数を学生全員が満たすためには当初の実習計画を変更しなければならない可能性があることが現在直面している課題です。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 再開の目途が立たず、休室が長期化することで学生と担当ケースとの関係性に変化が生じる可能性がある点が今後慎重に吟味する必要のある課題と考えております。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 同左 	<ul style="list-style-type: none"> 公認心理師受験資格取得に必要な時間数を学生全員が満たすために、学内および学外施設との調整、実習計画の変更、授業時間割の調整に向けて検討を重ねております。
51	5/6	2	<ul style="list-style-type: none"> 学生のネット環境、PC 等のデバイスの利用状況について全学でアンケートを実施したところ、9割がた整っているようだったが詳細に聞くと PC が古い、あるいは家族と共有である、Wi-Fi が途切れやすい、スマートフォンの利用で画面が小さい、プリンターがない、など学習環境に不安がある学生も少なくない。遠隔授業となることは避けられない状況で、Zoom 等のライブ配信以外の学修方法を整えていく必要があり、教員、 	2	<ul style="list-style-type: none"> 感染拡大地域ではないものの、拡大地域との行き来があるため、感染と予防の可能性を考えながらの授業実施となる。本年度は学外実習は難しいと予測しながら、どのように補完していくのか、文科省の事務連絡にあるように後ろ倒しにどこまでできるのかが問題となる。 	4		4		<ul style="list-style-type: none"> 本学は学部のみのため、心理実習は学生多数の施設見学に充てることが多く、本年度の実施は難しいと考えている。 遠隔による施設見学の可能性を探りつつ、8月までは様子を見て本年度実施の可能性を探りながら、実際は来年度へ後ろ倒しになると予測している。

			学生ともに手探りの状態での春学期の開始となる。						
50	5/1	1	・ 演習・実習については、遠隔授業で対応できない部分をどうするか。	2	・ 学外実習については、実習受け入れの可否についての問い合わせも控えている状況。	3	・ 学外実習について、学内で実習で代替えという、文科省の通知(2月28日付)が、公認心理師についての指針をさらに示してほしい。	3	・ 3月21日まで相談活動を実施して、以後はセンターでの実習は見合わせている状況。
49	5/1	1		2		3		4	
48	4/30	1		2	・ 前期はオンライン授業となったので、学外実習も後期に延期した。ただ、後期でも実習可能な状況になっているか分からないし、後期に全員が予定通りの実習時間をこなせるかも課題である。	3	・ 3月から休室期間を何度か延長し続けており、今後も前期中は再開の見通しがもてない状況である。クライアントを待たせている状態なので、何かできること(遠隔相談など)がないか、検討している。	2	・ 中断している状態である。
47	4/30	1	・ いくつかの授業については、Zoomなどを用いたり、動画を配信するなどの形で対応しています。ただし、Zoomは同じ時間に学内で使用できる数に制限があり、必ずしも希望通りに使用できるとは限りません。 ・ 問題の1つとして、ケースカンファレンスを行う授業をどうするか、遠隔授業ではセキュリティに心配があり、どうするのがよいか他の大学の状況も教えてもらいながら、検討を進めているところです。	2	・ 現在お願いしている多くの学外実習先は、受け入れを延期しています。このままで果たして必要実習時間を満たすことができるか、心配な状況であり、代替案について検討しているところです。	3		2	
46	4/29	2	・ 心理検査や実験、実習、ロールプレイなどの内容	2	・ 演習形式にしたり担当事例の考察を深めると	3	・ 現在は休室で電話や手紙などでクライアント	2	・ 学外同様、大幅の減少が予想される事例担当

			を遠隔授業という形式でどの程度満たすことができるかどうか問題として大きい。		<p>いった対応をするにせよ、実習総時間 450h を確保する以上に事例担当実習時間270h以上をどのように確保するか非常に苦慮している。</p> <ul style="list-style-type: none"> また、実習先を変更したり、曜日を変更するなどの可能性を探っているが、実習先のキャンパシティの問題もあってすべて補えるかどうか問題となっている。 		とのつながりを継続させている。今後このような状況が長期化した場合に、電話面接や Zoom などのツールを用いた遠隔面接も選択肢としては挙げられるのであろうが、大学院生が行うことは実際には難しいものがあり、仮に導入するにしても相当の準備と教育が必要と思われ、現在の対応をいつまで続けられるのか苦慮しているところである。		実習時間をどうやって確保するかが問題である。	
45	4/28	1		1	<ul style="list-style-type: none"> 実習は来年度から実施予定 	4		4		
44	4/28	1	<ul style="list-style-type: none"> ロールプレイやディスカッションによるリアルな対人接触による学びの機会が阻害されている状況であり、急遽、遠隔になったことによる授業の質の低下をどのように担保するのか考える必要がある。また、上記の状況をふまえ、現在の演習や実習をどのように実施するかについては模索しながらやっている。 学生の学習の習慣づけ、動機づけの低下の問題。 学生側のパソコン環境、セキュリティ環境 	2	<ul style="list-style-type: none"> 学部については、医療機関のひとつから今年度の実習は中止の連絡を受けた。 具体的な実施については、感染のリスクや予防策を含め、今後、実習先と協議し決定することとなると思う。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 3月初旬より、大学院生が担当する面接は中止。新規ケースは電話受付のみ。教員、非常勤相談員が担当する面接は状況により感染予防対策の上、実施していた。4月上旬よりすべての面接が5月10日まで中止となった。 5月10日までは実質的な面接ができない。面接中止が長期に及んだ場合、クライアントへの対応をどうするか。 再開に際しては、感染予防対策(プレイルームのおもちゃや面接室備品の消毒、教職員や大学院生の健康状態)をするが、何をどこまで 	2	<ul style="list-style-type: none"> 3月初旬から突然に面接中止となったため、M2の終結面接ができず教職員がフォローしているが、院生にとっては不本意な状況となった。 上記に重なるが、面接室、人員の衛生管理の問題。 学外実習と同様、院生の実習時間の減少による質的な低下は懸念される。 	<p>〈代替の実習について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 代替の実習については、厚労省の提案に基づいて代替演習を柔軟に組んでいく必要があると思っている。学内実習の他機関と連携したワークショップ、オンラインによるロールプレイ、遠隔形式での講義など。 現場実習のリアルな対人接触の実習時間が減少することによる学生側の不利益は生じる。 <p>〈意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 現場での実習については今年度は不可能ではないか。国家資格として満たすべき条件

							<p>すればよいのか不安がある。明確な指針が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の利用者の減少が予測される。 ・ テレコミュニケーションによる面接の導入が検討されつつある。しかし、課題は山積している。相手先、施設内双方でのプライバシーを確保できる環境の確保、機器の購入、設備の問題、通信料の問題、セキュリティの問題など。経験豊富な人員も少ない。 			<p>を達成させるには大学や実習施設での工夫だけでは限界があると感じている。厚労省にはできるだけ早い段階で対策案を出してもらいたい。</p>
43	4/28	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生のネット環境が不明であり、教員が遠隔授業に不慣れである。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状では準備段階であり、予定通り進めていることになる。しかしながら、実習先の状況によって中断・延期・中止もありうる事が伝えられている。 	4		4		
42	4/28	1		2		3		2		
41	4/27	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生のネット環境が不明であり、教員が遠隔授業に不慣れである。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状では準備段階であり、予定通り進めていることになる。しかしながら、実習先の状況によって中断・延期・中止もありうる事が伝えられている。 	4		4		
40	4/24	1		2		3		2		
39	4/20	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に大学院における公認心理師対応カリキュラムの実施に関わって、オンライン授業の在り方に苦慮する。人数の規模が大きい。講義科目で 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習については実習先のルールに従って、中断、延期、短縮、継続まちまちである。実習全体の管理には手間がかかっている。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月6日まで全学入構禁止措置のため、一切動いていない。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生同士の交流をweb上どう作るのか。これも手探りである。 	

			<p>20-40名 実習事前事後指導も、個別対応以外に小集団カンファレンスがあり、最大30名ということもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の質をどのように担保するか。工夫が必要。 						
38	4/19	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前期の授業は、すべて、Zoomによるオンライン授業に決定。 ・ 学生のインターネット環境、接続できる端末、カメラとマイク機能等を調査中。 ・ 「インターネット環境・無し」という学生への対応は、これから検討。 ・ 教員のオンライン授業研修会(2時間)を、オンラインもしくは研修会場のどちらかを選んで、20日から行う。 ・ 大学院の「心理実践実習」では、外部実習・大学相談室実習の事前実習・事後実習はZoomで行う。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月から5月7日まで、学生は、休校となり入構禁止となっている。 ・ それに伴って、学外実習は中断している。 ・ 学外実習施設からの実習お断りの申し出は、今のところはない。 ・ 大学として、学生の安全のため、オンライン授業に切り替えているのに、長時間、交通機関を使つての実習に行かせてよいかという問題はあ 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床心理相談室は、4月4日～5月7日まで閉室となっている。その間、学生は大学入構禁止。 ・ 新型コロナウイルス感染症に関わる外出自粛が続けば、臨床心理相談室の開室は延期となる可能性が大きい。 ・ 授業は、5月13日から開始であるが、前期の授業は、すべてオンライン授業となっている。 ・ 学生の安全を考えての出校制限であるから、臨床心理相談室実習のための出校には、特段の配慮が必要になる。 ・ 大学への通学時における感染危険性を考えると、臨床心理相談室実習は、危険性がなくなるまでは中止となる可能性はある。 ・ こうした状況では、特に修士2年生では、450時間の「心理実践実習」における実習時間及び担当ケース時間を確保できなくなる。 ・ 代替案の検討が必要で 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文科省・厚労省から、令和2年2月28日付けで出された事務連絡「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について」において、1.(3)に、「実習施設等の代替が困難である場合、実情を踏まえて実習に代えて演習又は学内実習等を実施することにより、必要な知識及び技能を習得することとして差し支えないこと。」とある。 ・ 今後、学外実習時間が確保できなかった時、学内実習でクライアントと接して「担当ケース」実習を代替していく努力をするが、状況によっては学内実習施設も閉室が長引く可能性がある。修士2年生においては年度をまたいでの実習はできない。 ・ こうしたことから、「演習」で代替しなければならない状況が出てく

							ある。			<p>することも十分に想定できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公認心理師養成における実習の到達目標を、演習形態においてはどのように工夫できるかを早急に検討しておく必要がある。 ・ 本連盟において、知恵と工夫を出し合うコーナーを作っていただきたい。 ・ 大学院授業(計4人)で、以前に、模擬カウンセリングを行っていたことがある。(90分×3回) ・ 第1回目:50分のモデルカウンセリングを視聴したのち、クライアントロールとセラピストロールをとる学生群に分ける。個々にクライアント像、セラピスト像をイメージアップしメモする。 ・ 第2回目:2人1組になり、視聴したカウンセリングの続きのカウンセリングを50分行う。その際録音しておく。カウンセリング終了後、それぞれに逐語記録を起し、次回の体験発表の準備をする。 ・ 第3回目:4人がそれぞれに発表し、グループスーパービジョンを受ける。 ・ 上記では、模擬カウ
--	--	--	--	--	--	--	-----	--	--	--

										<p>セリングとはいえ、学生は、より具体的で実感的なカウンセリング体験をなした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本来の実習の代替になりうるためには、どういった要素が必要かの検討を行わなければならない。
37	4/17	2	<ul style="list-style-type: none"> 教員・学生双方に相応の準備が必要であり、円滑に実施できるまでには時間がかかると思われる。 いわゆる「ケースを担当する実習」に関する授業や、心理面接・心理検査のロールプレイ等は、遠隔授業での実施が難しいように思われる。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 現時点(4/17)では前期(7月末)までに予定していた実習を見合わせるごととし、日程や形態の変更を検討中。 見学を中心とした実習ならば、施設から実習指導者や職員を学内に招いて講話を行ったり、施設内の様子を映像で紹介してもらうなどの工夫が可能ではないかと思うが、先方に新たなご負担をかけることでもあり、積極的なお願いはしづらく感じられる。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 今般の緊急事態宣言発出を承け、対面での相談業務を休止中。 学生の実習時間確保について、具体策がほしい。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 現時点(4/14)では連休明け(5/6)まで学生の担当事例に関する実習は見合わせるが、今後の見通しは不明。 非対面形式での実習について検討しているが、ネットを介した授業は情報漏えいのリスクがあり困難。 	<ul style="list-style-type: none"> 公刊された事例(心理面接、心理検査、チームアプローチ等)を題材とした事例検討や、紙上応答訓練であれば、遠隔形式でも実施可能と思われる。他にも具体的なアイデアがほしい。
36	4/17	1		2		3		2		
35	4/16	2	<ul style="list-style-type: none"> 学生側の機器および受講のための準備(特に新入生)。 心理検査等、用具・実技を伴う内容をどのように提供するか。 「事例検討」等、オンライン授業におけるセキュリティの問題が解決できない。→外部からの侵入(内容の監視を含む)、受信者側の守秘環境など 	2	<ul style="list-style-type: none"> 「緊急事態宣言」発出を受け、大学院として延期を決定したが、再開時期が流動的であること。代替課題が限られていること。 同上により、大学の「健康診断」が延期となり、実習開始に直接の影響がある。 	3	<p>上記回答について</p> <ul style="list-style-type: none"> ③と回答したが、実際には「休室」とし、かつ②の臨時対応も行っている。 <p>〈問題点・疑問点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 面接室の衛生管理の問題(特に、換気、プレイセラピーにおける遊具・おもちゃ)。 3密の問題。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 上記回答と重なる。 	

			<ul style="list-style-type: none"> 図書館休室のため、自宅学習・課題に限界がある。 						
34	4/16	1	<ul style="list-style-type: none"> 4/22より開講ですが、前学期(15回)はすべて遠隔授業で行うという大学の方針です。 大学院・大学の実習、演習をどうしていくのか大学の自粛がいつまで続くかわからない中で対応に迫られています。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 今年3月の実習は実習施設側の受け入れが難しくなり、延期している。今年度一年間を通して実習の受け入れが難しいという連絡も施設側から来ている。医療機関での実習が必須となっているが、今後受け入れていただけるのかどうか先が見通せない。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の電話対応のみ行っている。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 本県は急事態宣言が出ており、自粛要請を受けて学生は立入禁止、教員も許可制での出勤となっており、いつ制限が解除されるかが見通せない。実習科目に関しては対面授業が必要だと思うが、今後どの程度この状況が続くのか予測がつかない中で代替をするにしても実習時間が確保できるのか、教育内容の削減をせずに授業等を展開できるのか苦慮している。 連盟への要望として以下の通りである。 他大学でどのような工夫をされているかお知らせいただけるとありがたい。 連盟として厚生労働省・文部科学省へ実習時間の短縮等弾力的な対応をとるよう申し入れしていただきたい。
33	4/15	2	<ul style="list-style-type: none"> 学生が必ずしもネット環境が十分な状況にあるかどうか 遠隔が向かない授業もある 	2	<ul style="list-style-type: none"> 厚労省からの通達に従って時間数確保を目指しているが、状況によっては時間数確保が難しい場合も生じると思われる。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 実習生の検温や体調確認、マスク着用など、十分な対策を行い、利用者にも同様の対策を求めたうえで開室しているが、どこまですれば十分かがわからない。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 利用者と院生の安全を最優先すると、開室閉室の判断が非常に難しい。

32	4/15	2	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業での演習・実習をどのように実施するのか、課題が多くあります。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 非常事態宣言後に再開を予定していますが、コロナウイルスの感染状況によっては、さらに延期することになります。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 非常事態宣言後に再開を予定していますが、コロナウイルスの感染状況によっては、さらに延期することになります。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 非常事態宣言後に再開を予定していますが、コロナウイルスの感染状況によっては、さらに延期することになります。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習の代替については検討をしていますが、現段階では未定です。
31	4/15	2	<ul style="list-style-type: none"> 現在学生の PC、モバイル所有状況調査を実施中。 学内研究会・研修会情報の共有により問題、課題を検討中。 試行的に大学院生と遠隔授業の練習を実施。 	2	<p>～4月14日</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月当初より開始されていた実習については予定通り実施している。しかし、臨床心理相談室休室の可能性を検討し、現在審議中。大学の方針を合わせて検討。 新型コロナウイルス対策の実施要項を作成し、3月から順次実施中。事前の検温・マスク着用・手指消毒・アルコール除菌等、相談担当者および外来者が順守する要件を記載。 <p>4月15日～</p> <ul style="list-style-type: none"> 2. 中断・延期している 大学が5月10日まで学生の入構を原則禁止とする方針が14日に決定。そのため、多くの実習は、延期・中断の措置を取り、一部の実習先において、話し合いにより自宅での自習学習・遠隔授業での対応を実習に認めることが了承されている。 	3	<p>～4月14日</p> <ul style="list-style-type: none"> 現時点では、予定通り実施している。しかし、臨床心理相談室休室の可能性を検討し、審議。大学の方針に合わせて検討。 新型コロナウイルス対策の実施要項を作成し、3月から順次実施中。事前の検温・マスク着用・手指消毒・アルコール除菌等、相談担当者および外来者が順守する要件を記載。 <p>4月15日～</p> <ul style="list-style-type: none"> 3. 休室：大学の方針に従い、知事による緊急事態宣言が解除されるまで休室することとした。 	3	<p>～4月14日</p> <ul style="list-style-type: none"> 予定通り実施した。しかし、臨床心理相談室休室の可能性を検討し、審議した。大学の方針を合わせて検討。新型コロナウイルス対策の実施要項を作成し、3月から順次実施中。事前の検温・マスク着用・手指消毒・アルコール除菌等、相談担当者および外来者が順守する要件を記載。 <p>4月15日～</p> <ul style="list-style-type: none"> 中止した：大学の方針に従い、臨床心理相談室における実習は休止することとした。休室以前に実施したケースのスーパーヴィジョンもすべて休止されるため、3・4月からジョイントしたケースについては再開後に課題が生じることが懸念される。 	<p>～5月11日</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020年度前期分の実習ができない見込みとなっている施設実習は、他に受け入れ余裕がある実習先に依頼を変更。医療機関・教育機関はそれについても、今後どうなるかわかりません。 現在待機中の実習施設に関しては、状況が改善し次第実施予定である。実施化できない見通しとなった時点で、他の実習先に依頼を変更する方針としている。 学校関係では、生徒向けのポスター作製など、学校臨床に関連する校内業務の一部に参画できるよう調整中。1回分の実習が実施できない見込みであるため、遠隔授業+自習で1回分4時間の実習の代替を構成できるよう調整中。 今後、新型コロナウイルスの蔓延が抑制できない見通しが生じた場合の対応、実習が再開

										できる見通しとなった際に向けて、新型コロナウイルスの対策として学生に求めている事項など、他大学の状況を共有していただけるとありがたいです。
30	4/15	2		2		2		2		
29	4/15	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠隔に使うサイトの安全性。 ・ 遠隔にした場合の授業の質。 ・ 学生の授業の集中力。 ・ 学生同士の交流やリアルな対人接触の機会の減少 ・ 大学の設備の使用機会の損失 ・ 演習や実習の質の担保などが課題と思います。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏以降なので、現在のところ予定通りとしているが、状況によって延期、短縮、中断も考える。 	4		4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の通常の授業自体がこれから開始されるため、まずは通常の学習の機会を担保することが先決であり、本学のような小さな大学は体力も人材も限られているため、走りながらの運用となると思われる。秋学期以降、病院の施設見学を予定しているが、夏までに収束するとも思えず、悩ましい限りである。その場合は見学時間を減らすなどの柔軟な対応が迫られると思う。本学の場合心理実習は、学部2年生と3年生が対象なので、最悪は来年度でも間に合う。本年度は学生、教員、実習先の安全確保が第一義と考えている。 	
28	4/15	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインでのセキュリティ ・ 学生側の機器の環境整備 	2		3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月の1か月は閉室にしているが、5月から本当に再開してよいのか、不安があります。 	2		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学内での、前年度までのケース検討会や、学外実習について先輩諸氏が残した紀要のケースなどについて検討する。 ・ 授業内での模擬カウン

										<ul style="list-style-type: none"> セリングを充実させる。 もし、予想外にウィルス対策が遅れた場合はオンラインカウンセリングの為に講習会や授業での実施、模擬カウンセリングなどを試みる予定であるが、いずれも検討段階である。
27	4/15	2	<ul style="list-style-type: none"> 前期(7月末)までの講義はすべてオンライン授業となった。そのため、実習や演習の科目について、対面形式での実施を大学には要望していたが、感染拡大のリスクの懸念から、要望は通らずに、結果的にはすべてオンライン授業となっている。学内および学内の実習(心理実践実習)については、8月以降からの開始を予定しているが、必要な時間数を確保できるかどうかが一番の課題である。また学生には、従来、実習に習得できる内容を後期から短期間で学ぶことになり、また並行して修士論文の作成も求められるため、学生への負担も大きい。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 前期(7月末)までの講義はすべてオンライン授業となった。そのため、実習や演習の科目について、対面形式での実施を大学には要望していたが、感染拡大のリスクの懸念から、要望は通らずに、結果的にはすべてオンライン授業となっている。学内および学内の実習(心理実践実習)については、8月以降からの開始を予定しているが、必要な時間数を確保できるかどうかが一番の課題である。 また学生には、従来、実習に習得できる内容を後期から短期間で学ぶことになり、また並行して修士論文の作成も求められるため、学生への負担も大きい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 4月から5月6日まで閉室としている。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 学生が実習として担当していたケースの方がたには1か月以上、面接が中断している状況であり、十分に社会的責任を果たせているとは言いがたい。閉室も急ぎよ決まったため、リファーマもできていない。また再開したところで、ケースの方が再度入室されるかどうか不明であり、学生に継続した心理面接の指導がおこなえない可能性もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 代替の実習として、オンラインによる事例検討やロールプレイ(学生同士)を検討している。その他、実習として代替できることがあれば、他大学の取り組みをぜひ知りたい。
26	4/15	2	<ul style="list-style-type: none"> 演習系(ロールプレイ、心理アセスメントなど)の授業が遠隔でどのようにできるのか困っています。特に心理検査演習 	2	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始が5月以降と延期になっているので延期しています。また、実習先の受け入れ延期(中止の可能性)の打診 	3	<ul style="list-style-type: none"> 大学の入構禁止措置(2/26-3/31)の間と現在でも閉室継続です。踏み切った理由は、来談者のご家族や勤務先 	3	<ul style="list-style-type: none"> 3-1に記載したとおり、閉室になっているため、学内ケースがもてず、実習に著しく支障をきたしています。 	<ul style="list-style-type: none"> 文科省では公認心理師の実習についても柔軟な対応が可能な通達が出ていますが、それでも学外実習分をす

			<p>は検査用具を使用する必要があるため、遠隔では困難です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 院生の自宅でのネット環境が整備されておらず(PC ない、マイクカメラがついていない、通信量制限など)教育の機会の公平性を欠くことへの対応が難しいです。 院生は少数なのでなんとかなるかもしれませんが、学部心理実習、心理演習は多人数であるので、授業形態変更しても検討が必要と考えています。 		<p>がきているところもあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮に実習が許可されても、学生には健康調査を毎日させてはいますが、無症状の場合もあるので、学生が感染源になることへのリスク、大学としての責任など考えると、実習実施も躊躇します。また、実習先での集団感染(特に医療機関)を受けた際、学生への補償をどこが担うのか明確になっていないので、大学として実習に行かせることも躊躇します。 誓約書の内容も変わってくるのかと思います。 大学の健康診断も延期になっているので、仮に5月から実習開始となっても、学生の健康状態の確認ができていませんし、学外の医療機関に受診させるリスクや経済的な問題を考えると、難しいと思います。 		<p>等の感染状況まで聴き取りが困難、プレイルームのおもちゃの消毒などは限界がある、院生、教員からの感染リスクのため、心理臨床センター内での感染リスクが0でないかと判断したからです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 閉室に伴い、これが長期化すると、勤務している非常勤事務室員さんの雇用にも影響がでそう、気がかかります。 		<ul style="list-style-type: none"> 今週から継続ケースに限定して、電話相談(無料)カリファの希望をとり、電話相談を希望されたケースについては、院生担当・陪席で実習を一部開始しています。 もともと、ZOOM 遠隔相談実習を実施していたので、これについては問題なく実施できますが、契約先の教育機関が授業開始できない際は、こちらも支障がでます。 2月末から突然入構禁止になったため、当時のM2の終結面接ができず、やむなく、電話面接に切り替え、クライアントにとっても院生にとっても不本意な状況でした。 	<p>べて学内実習に代替えるのは難しいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 以前から手薄だった、感染対策の事前実習時間は十分とれると思います。 社会貢献のためにも、新規ケースでも、院生が陪席などの条件をつけ、承諾が得られる方には電話相談を行い、学内実習とすることも考えています。 また、この機会に、遠隔相談実習は実習時間数を多くする予定です。従来実施していたグループ活動やLDへの学習支援のグループは遠隔に切り替える可能性を検討中です。
25	4/14	2	<ul style="list-style-type: none"> 実習内容に関する事前・事後の大学の学内指導は、閉鎖されたオンラインでの指導であっても個人情報に関わるため実施が難しく、大きな検討課題である。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言を受け、予定していた実習再開のメドが立たなくなっており、後期に代替できるとしても例年よりもずっと実習時間が減ってしまう。実習生の不利益の問題がある。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 施設によっては学外施設の実習が再開されても、学内の相談室は大学の方針に合わせる必要があり(入構をかなり厳しく制限する可能性がある)、実習再開がより遅れる可能性がある。 	4		<ul style="list-style-type: none"> 予定していた年間実習回数が確保できるよう施設に依頼する、学部3年生の実習は翌年など時期をずらしての実施を検討。
24	4/14	2		3	<ul style="list-style-type: none"> 大学のオリエンテーションが連休明けとなり、現 	3	<ul style="list-style-type: none"> 大学のオリエンテーションが連休明けとなり、現 	3	<ul style="list-style-type: none"> 大学のオリエンテーションが連休明けとなり、現 	<ul style="list-style-type: none"> これから具体的に検討していくところである

					<p>在、大学全体が講義、実習を中止としてなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> また、3月の段階から、学外実習施設と相談して実習を中止している。 今後、状況を見ながら、実習の再開を検討するが、現状を鑑みると、学外実習の実施は難しいと考える。 		<p>現在、大学全体が講義、実習を中止しており、現在、学内実習施設も中止している。</p>		<p>現在、大学全体が講義、実習を中止しており、それに伴い、現在、中止している。</p>	<p>が、予定していた学外実習施設の特徴についてまとめたり、そこで予想される心理職の仕事についてまとめたり、あるいはオンラインなどで、学外実習施設の担当者から心理職の仕事について聞いたり質問するなどが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内施設実習では、これまでのケースの報告書をもとに、アセスメントを行ったり、過去の心理検査をもとに心理検査の報告書を作成するなどが考えられる。
23	4/14	2	<ul style="list-style-type: none"> 心理実習の施設見学実習を、遠隔授業で行うことを考えている。実習指導者に講和をしてもらうことを考えているが、予定していた当初の実習時間よりも短くなると思われる。残りの実習時間をどのような形で補えばよいか検討中である。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 心理実習、心理実践実習のどちらにおいても医療機関での実習が必須となっているが、医療機関での実習が全く実施できない場合、その全てを遠隔授業もしくは学内演習等で補っても差し支えないか。 2グループに分けて別日程で行う予定であった心理実習の施設実習を、遠隔授業により1グループまとめて行うことを考えている。当初の予定を変更し1グループで行う場合でも、実習指導者もしくは実習担当教員数は実習生15名につき1名が必要か。もしくは実習指導者もしくは 	2	<ul style="list-style-type: none"> 現在は休室中であるが、4月17日より言語面接のみ相談を受け付ける予定である。ただ、利用者数は減少することが予測される。下記にも述べる通り、利用者の減少は学内実習時間(特に担当ケース時間)の減少に直結する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 学内相談センターの来談者が減少することが予測され、大学院生のケース担当時間が不足する可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学院一年次に予定していた実習ができなくなる可能性がある。次年度に回すことを検討するが、それが難しい場合には、予定していた時間分については学内演習等で補って差し支えないか。 学外実習については、実習指導者に大学に来ていただく、もしくは遠隔授業の形式で講話をしていただく方法を考えている。

					は実習担当教員が確保できない場合、この要件については柔軟に考えて差し支えないか。					
22	4/14	2	・ セキュリティ上の問題	2	・ 学生によって、実習時間にバラツキが出てしまうのが心配。 ・ 医療機関への実習の困難さ。	3	・ クライアントへの負担。何を優先すべきか。	3	・ 実習経験、実習時間の確保	・ メディア資料を用いた実習、事例論文などの活用。
21	4/13	2		2	・ 実習先の要望もあって後期に延期になりました。実習スケジュールがタイトになってしまい、院生の負担が増えることを危惧しています。 ・ また、M1 のケース時間を確保できるか心配です。	3	・ 学長命令で休室となってしまう、クライアントへの支援が滞ってしまっている。 ・ 非常勤カウンセラーの給与がストップしてしまうため雇用上の問題もありそう	2		
20	4/13	2	・ 学生のオンライン授業受講環境によって、さまざまな問題が生じる可能性を心配しております。	2	・ 実習のための移動や集団での接触の機会が増えるため、感染が心配される ・ 実習の開始時期が不明である場合、実習計画が立てづらい ・ 施設毎に延期などの判断が異なるため、その都度の調整が必要とされる	3		2		・ 緊急事態宣言を受けてから学内施設は休室したが、実習としてはオンラインにより、個人情報を守るためのルールや手続きのもと、担当ケース(既に面接を実施した、あるいは担当を予定していた)に関してスーパーバイザーとこの危機状況下における経過や査定など含めて話し合う「ケースに関わる実習」(スーパービジョン・事例検討)、担当ケースに関連した文献を通しての病理・見立て・技法の学習、ロールプレイなども含めつつ心理検

										<ul style="list-style-type: none"> 査・特定技法・臨床的態度を身に付ける演習など、実践的な内容と通常の指導形式に近づける工夫をした、スーパービジョン・事例検討・実践的演習を行う予定で進めている。
19	4/13	3	<ul style="list-style-type: none"> 現時点では予定していないが、状況によっては行うことも視野に入れている。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 実習時間数が足りなくなるとは必至なので、どうしたものかと相談中です。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 非常事態宣言を受けて閉室としました。 いつまで続くのか読めないなので、クライアントへの対応を考えています。 	2		
18	4/13	2		2		4		2		<ul style="list-style-type: none"> 学外実習が実施できない場合の代替方法について苦慮しています。
17	4/13	2	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業に使用するアプリの脆弱性の問題などがありますが、常に最新の情報を確認し対策を講じるようにしていけば良いかと思います。 事例のカンファレンスなどは、プライバシーの問題がありますので、より一層そうした努力が必要かと思っています。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言中は中止としました。宣言期間後は実習先に合わせての再開となると思われますので、どうしても実習先ごとに実習時間の確保に差が出てくるかと思えます。 先の文部科学省・厚生労働省の通知で大学院での演習等で不足分を対応していくことも可能ということですので、柔軟に対応していくことで単位取得などは可能であると思いますが、もし実習中止期間が長くなると、現場実習ならではの体験が不足してしまうことは、学生にとっての不利益になりかねない 	3		3	<ul style="list-style-type: none"> やはり実習時間の確保(特に直接)の問題が生じてくるかと思えます。問題点は、学外実習の場合と同様です。 	

					とも思います。					
16	4/13	2	<ul style="list-style-type: none"> 学生(特に新入生)間に生じうるであろう環境格差への対応(例えば、個人PCを持たない学生など) 教員間の技術格差から生じる学生の混乱(不安を含む)をいかに解消するか 	2	<p>現在、進行している実習はないため、次の点を基本方針に定め対応することとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 休校中は実習を中止する(5月6日まで) 前期150時間程度を予定している実習については、原則「先延ばし」はせず、演習に振り替えることで実習時間を確保し、休校期間が長期化した場合に備える 休校が解除された場合においても、実習の事前学習に関する時間が十分に確保できていないと判断される場合には、予定されている実習時間を次期もしくは次年度以降、さらには開講時期を延長変更することにより可能な限り現場での実践時間を確保する旨を実習協力施設機関に文書にて依頼し、理解と協力を得る 	2		2		
15	4/13	2	<ul style="list-style-type: none"> 査定など、演習系の授業をどのように実施するか。 実習に関する個別SVを遠隔で行う際のセキュリティ問題(本学では実習生によるカウンセリングを録画し、SVで使用している)。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 学外実習はもともと5月から始まる予定だが、学校(休校になっている)、病院、児童福祉施設、家庭裁判所、児童相談所、少年院について、まだ実習が出来るかどうか不明。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ対策について注意事項を周知の上、通常開室している。 今後、社会状況の変化によっては休室となる可能性がある。 現時点で、新型コロナを心配した問い合わせ・キャンセルなどが少数発生している。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ対策について注意事項を周知の上、予定通り実施している。 今後、学生の登校が禁止となった場合、あるいは休室となった場合、学内実習は実施できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 国からの2/28付文書に「実習施設等の代替が困難である場合、実習を踏まえ実習に代えて演習又は学内実習等を実施することにより、必要な知識及び技能を修得することとして差し支えない」とあるので、学生の登校が禁止となり、学外機関へも

										<p>行かせられなくなった場合のことを考え、演習による実習を検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学院での心理実践実習(450時間)は学部の実習とは異なり、質の高さが求められる。資料を読んだセルフラーニング、視聴覚教材を見ての自己演習、遠隔授業を用いて、教員とのロールプレイや学生同士のロールプレイなどを考えているが、実際のカウンセリングを実習できないことが大きな問題である。 クライアントの遠隔支援(電話、メール、Web会議システムを用いたカウンセリング)を実習として実施できないか、検討している。
14	4/12	1		2		4		4		
13	4/12	2		2	<ul style="list-style-type: none"> 学外実習は来年度から開始します。(延期ではなく、元々の予定です。そういう選択肢がなかったので、2にチェックしました。) 	4		4		
12	4/12	2	<ul style="list-style-type: none"> 心理演習、心理学実験演習等は遠隔授業のみで行うことは難しいため。 夏期休暇中の集中講義等も検討中。 	3		4		4		<ul style="list-style-type: none"> 本学は、心理実習が始まるのが2021年度であるため、今年度はあまり大きな影響がなくて助かっています。
11	4/11	2	<ul style="list-style-type: none"> 対人支援の専門家の養 	2	<ul style="list-style-type: none"> 公認心理師試験受験資 	3	<ul style="list-style-type: none"> 休室したことによって、 	2	<ul style="list-style-type: none"> 学外施設での実習と同 	<ul style="list-style-type: none"> 国家資格ですので、こ

			<p>成において、対面でのロールプレイやディスカッションは、欠くことのできない貴重な体験学習だと言えます。その機会が著しく阻害される状況ですので、適切な授業内容を提供できるかどうか不安です。</p> <ul style="list-style-type: none"> また、授業で用いる資料の共有においては事例などはセキュリティの問題が生じます。映像資料の視聴も大切な学習の機会ですが、インターネットでの共有には著作権も大きな課題だと感じております。 		<p>格に必要な実習時間を確保できるのかどうか、時間数が減るために十分な体験が出来ず、実習の質として不十分ではないか、ということが不安です。</p> <ul style="list-style-type: none"> また、実習を再開した場合には実習先での感染の可能性も否定できず、その際の責任や補償などが課題点だと感じております。オリエンテーションや事前事後指導を対面で行えないためコミュニケーションが不十分になりがちで、検討資料の共有にも課題を抱えています。 		<p>ケースを順調に再開・継続できるのかどうか、不安を抱えております。</p> <ul style="list-style-type: none"> また、休室自体が解除されうるのかどうか不明で、ケースの見通しが立ちません。 さらに、相談室のスタッフの健康管理や勤務の調整、および勤務日数が減ることによる収入減も、大きな課題です。 		<p>様、公認心理師受験要件のための時間数の不足、および専門家としての実践に向けて、指導を受けながらのケース体験経験の不足が、懸念されます。質量ともに十分な実習を提供できるかどうかについて、疑問を感じております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ケースに対する指導も遠隔で行っていますが、対面ではないためコミュニケーションが難しくなることや、資料の共有する際のセキュリティが大きな課題です。 	<p>れまで想定されてきた実習が行えない場合の対策を、国のレベルで検討し実施していただきたいと思います。医療機関や学校などの実習先の方々のご苦勞も大きいことですので、現場での工夫では限界があると感じています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮に学外実習や学内施設実習がしばらく行えない場合の本学の対応については現在検討中です。例えばまだ具体的ではありませんが、遠隔でのケース担当や他機関と連携してのワークショップの導入も検討すべきではないかと考えているところです。
10	4/11	2	<ul style="list-style-type: none"> 学内において現在準備中である。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 現在、延期の状態。 外部実習先の医療機関・福祉領域の期間等々からはいずれも実習生の受け入れに関わって、新型コロナウイルス感染防止対策のため実習開始の延期を伝えられています。実習再開については実習先と協議し、決定していく。 遠隔授業の開始日から事前学習を実施して区が、学内、学外の心理実践実習の開始日は現在確定できる状態では 	3	<ul style="list-style-type: none"> 感染防止対策である数回にわたる大学の休校措置、休講措置延期、入校原則禁止などの措置に従い、感染防止対応を行っている。当然の処置と考え、来談者にはその都度、電話連絡を行っている。 公認心理師法に定められている実習時間を満たすことが出来るかが心配であると同時に、実習時間に関する代替え等々の特別措置を早急に示されることを望 	3	<ul style="list-style-type: none"> 現在、面談等々の心理実践は中止状態である。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在はまだ授業が再開されていない状況であり、予定日から授業が行われても遠隔講義となる。実習関係についてはそもそも代替えにどのようなものが可能かをむしろお提示して提示していただきたい。

9	4/11	2	<ul style="list-style-type: none"> カンファレンスやロールプレイや検査実習等の実技実習がどこまで遠隔授業で可能なのか、模索中 セキュリティの問題 教員および院生の技術的な問題、機材の問題 	2	<p>ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、実習時間が大幅に短縮せざるを得なくなった場合、どこまで学内実習で補えるのか。 院生の中で実習経験に大きな差が出てしまう可能性がある。 	3	<p>む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月6日までは休室としたが、そのあとどうなるか。 休室期間が長くなった時、クライアントへの対応をどうするか。 ケース経験の少ない院生に対してそれを補う実習ができるのかどうか。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 3-1と同様。 	<ul style="list-style-type: none"> まだ検討中で具体的なことが考えられていません。 学内実習に替えられるという文科省および厚労省の通知にしたがって、不足した分は学内実習で補うしかないと考えていますが、学内実習もオンライン授業等しかできない可能性があり、育成という点からは危惧しているところではあります。
8	4/11	2	<ul style="list-style-type: none"> 大学が有料で契約する教育用のZoomを使用する予定です。 ① 不慣れさ: 教員の多くがはじめて使う人たちで、FD 講習を1回行いました。ですが、これだけで活用できる気がしないです。当然、学生たちもそうで、パソコンにインストールするところから指導をしないとイケない状況で、日々追われております。 ② セキュリティ: マスコミがZoomのセキュリティの問題に関する情報を発信するため、保護者様からもZoomというツールでいいのかという質問があり、それへの対応にも忙殺されています。Zoomは全力でしばらくの間セキュリティ向上に努める 	2	<ul style="list-style-type: none"> 中止と延期と返事待ちがあります。 ① 中止: 医療機関のひとつから前期の実習は中止という連絡が入っています。 ② 延期: 本学は5月より実習開始しますが、5月の実習は延期という通達が2つの医療機関よりありました。 ③ 返事待ち: 複数の機関からはまだ返事もどってきておりません。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 3月27日より2週間の閉室を予定していましたが、緊急事態宣言を受けて、閉室期間の延期を5月9日までいたしました。 4月7日から10日にかけて、すべてのケースに担当者よりオンライン面接、電話相談の可能性、あるいは開室までお休み、についてのご希望を確認する準備をすすめました。順次、クライアントそれぞれの希望にそって実習を行う予定です。 問題点ではないですが、大急ぎで準備したこととして、 ① オンライン面接に関する承諾書を作成(あらたな契約) ② 学生に対してオンライ 	2	<ul style="list-style-type: none"> 閉室期間を5月9日までとしました。問題点は以下です。 実習時間不足 ① オンライン面接を希望しないクライアントを担当する学生の実習時間不足 ② プレイセラピーはすべて中止としたことでの実習時間不足 ③ 心理アセスメントの予約をすべて中止としたことでの実習時間不足 オンライン面接が可能である場合の学生側の環境 ① 静穏でプライバシーを保障できる環境を確保できるか ② 通信料がどうなるか オンライン面接が可能である場合のクライアント側の問題 ① 通信料をどうするか 	<ul style="list-style-type: none"> 代替の実習について厚労省からの助言もあり、「座学ではなく、実践的なロールプレイング」というのを検討しています。 何か他にいい方法があればぜひ教えていただけたらと思います。

			<p>というので信用しておりますが、100%の安全性は保障されないのでしょうから、何かあったときの危機対応を学んでおかねばならないと思います。しかし情報が十分ではありません。無料のZoomを学生同士が乱用することで、セキュリティ上の問題が生じることにも注意を喚起せねばと思っております。</p> <p>③使用環境:学生たちがこのツールを使うにおいて、静穏な学習環境が必要ですが、中には、いろいろな事情でそうした環境が確保できないものもあります。それに対する対応を検討中です。学生たちにかかる通信料への助成金などについても奨学金などを検討中です。</p> <p>④合理的配慮:自分自身がオンライン会議を経験し、発言者の音だけに集中しようとする短時間で疲労がたまることが分かりました。音声、すべての音(ページを繰る音、書き込む音など)を拾うため、あたかも聴覚過敏の生徒が体験している学習上の困難さを体験させてもらっているようです。発達障害傾向のある学生にとっては、かなりの負担になり、授業</p>				<p>ン面接における指導の実施</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ ケース記録の保存 ① ケース記録は本来センター内のパソコン(個人のパソコンの使用禁止 ② 日本臨床心理士認定協会からの指導)で行い、プリントもセンター内のプリンターで行う事に原則なっているが、SVを受けるためにも、個人のパソコンの使用を許可し、特定のUSBへの保存のみを認可するというようにルールを定めた。あくまでも期間限定でのルール。 <p>SVの受け方</p> <ul style="list-style-type: none"> ① スーパーバイザーとのオンラインのSVに関しても、上記の問題(セキュリティ、通信料、環境など)がある。 	
--	--	--	--	--	--	--	---------------------	--	---	--

			時間をこれまでよりも短くしたり、途中で休憩を入れるなどの合理的配慮の必要を感じています。							
7	4/11	2	<ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業におけるセキュリティ上の問題があり、適用できる授業が限られますし、また、適用した授業においてもつねにセキュリティリスクを意識しての内容になるため通常対面授業よりも講義で伝えられる内容に制約がかかるといった懸念があります。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 現時点では小、中、高も休校措置をとっており、調整を実施したいところですが、特に学校実習先については、先方の忙しさも考えますとなかなか難しく調整が難航しています。 また、このまま休校措置が継続されますと実習時間の確保が難しく思われます。厚労省より代替案として学内実習や演習への振り替えも可能とありますが、そうなりますと、実習指導担当教員の時間確保が不可能にさえ思われます。また、時間割上もかなりの科目数設定されていますので、どこの時間に振り替え演習の授業を入れるのかという問題もあります。 また、従来 M1 で実施していた学外実習を M2 に振り替えるとなりますと、本学は臨床心理士資格にも対応している大学院なので、修士論文は必修であり、こちらの方に支障が出てくることが考えられます。学外実習が M2 にずれ込みますと、学内相談センタ 	3	<ul style="list-style-type: none"> 現在時点では 5 月 16 日まで閉室としております。本学は最寄り公共交通機関からさらにスクールバスを利用している学生がほとんどであり、そのバス内での感染が懸念されている状況です。利用者の方々は自家用車で来られる方もいらっしゃいますが、バスで来室される方も少なからずいらっしゃり、その点でも学内施設開室そのものに慎重な検討が必要とされています。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 学内相談センターにおける4月及び5月開始の実習がすでに遅れていること、また、7月末開始の実習においても、この影響を受けてずらざるを得ない可能性が出ています。そうなりますと、実習時間の確保も困難となります。 	<ul style="list-style-type: none"> 厚労省が提案されている実習を代替演習で行う案についてはロールプレイなどの演習を検討したりはしておりますが、上記記載の理由より、学外実習を演習に替えること困難に思われます。

					<p>ーでのケース担当数にも支障が出るように思われます。公認心理師と臨床心理士の両方に対応したカリキュラム設定であるが故の難しさも多々あります。</p>					
6	4/11	2	<ul style="list-style-type: none"> 学生側の環境の問題と、対応が難しい科目などへの対応 	2	<ul style="list-style-type: none"> 受け入れ先との調整、実施等の判断 	4		4	<ul style="list-style-type: none"> 今のところ特になし 	
5	4/11	2	<ul style="list-style-type: none"> オンライン方式に慣れていない教員に対して、Zoom 講習会などが急遽開かれているが、Zoomの安全性などの問題その他が懸念される。 諸外国に比べて、遠隔授業導入・環境整備が遅れていた我が国の問題点がクローズアップしているが、これを機に欧米並みに発展させる大きな契機につなげていくことを期待したい。 また、実習・実験などをどう工夫しながら実施・展開させていくか、各大学で苦労していると思われるが、時期をずらす対応だけでなく、各大学の対応方法を集めて、いざれ広く発表していただくと、今後の大いなる参考として共有できるので、ぜひお願い申し上げたい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言が発令されてから、すべての機関での実習を一時見合わせている。 予定ではGW明けまでであるが、万一これが長期化した場合、実習時間・機会の確保を他でどう担保していくか、日々変わる状況を睨みながら、現在ワーキンググループ内で善処策を議論中である。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言が発令されてから、休室を続けている。 予定ではGW明けまでであるが、万一さらに長期化した場合、これまで一定の成果をあげてきた近隣社会に対する本機関の地域貢献力の低下が懸念される。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言が発令されてから、心理臨床センターは休室を続けている。 予定ではGW明けまでであるが、万一さらに長期化した場合、院生の訓練機会の担保の問題だけでなく、利用されるクライアントの方々に対するケアへの影響が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> 本学では、外部・内部実習ともに、これまでこなしてきた実習時間や担当ケース数が比較的多く、必要数の確保はしばらくの休止の場合、何とか満たせるように想定しているが、これがさらに大きく長期化した場合、演習・実習の追加、その他の方法に適切なものがないか、現在論議中である。もしよい方法があれば、ぜひ広く共有できるよう情報提供を今後もお願い申し上げたい。
4	4/11	2	<ul style="list-style-type: none"> 特に新入生や支援の必要な学生に対して、遠隔授業に関する指導が間 	1	<ul style="list-style-type: none"> 来年度開講のため整備中 	4		1	<ul style="list-style-type: none"> 来年度開講のため整備中 	<ul style="list-style-type: none"> 実習ができなくなった場合を想定できていない。どのような実習形態であ

			に合わないので、必ず漏れが出てくると思われる。教員自体も慣れていない。 ・ 演習や実習科目は困難。						れば代替実習に該当できるのかを知りたい。
3	4/10	1		2		3		2	・ 実施がむずかしくなった場合、実習の時間数をどのように確保するかを検討中。
2	4/10	2		1	・ とりあえず1と回答したが、後期に実施予定のため、対応は未定。現時点では1~3 いずれでもない。	4		1	
1	4/10	2	・ 実習に関しては対面のロールプレイを Zoom など会議システムで行えるか模索中。 ・ 心理テストを Web 上で共有できないため、どのように実施するか？自宅持ち帰りを可とすべきか？	2	・ ごく一部(小学校、療育施設、精神科病院)が予定通り開始。高齢者福祉施設、小学校(上記と他市)、精神科クリニック等が中断、受入保留、中止。 ・ 現在は、受け入れ先の判断に任せているが、すでに PSW などソーシャルワーカー連盟から6月まで実習を送り込まないよという声明が出されており、本学のある京都府も今日明日にも緊急事態宣言が出れば、大学側から中断を申し入れる予定。	3	・ 3月末に京都市内で大学生クラスターが発生して近隣だったため、その時点で2週間休室し、その後、感染拡大と周辺の緊急事態宣言を受けて学生の出入りも禁止となったため、GW明けまで休室延期。 ・ 新規申し込みの中止、継続ケースについては延期の連絡をしつつ状況確認。現在、相談員(職員)ケースについては必要に応じて、電話相談を臨時的に実施予定。大学院生のケースについては教職員がフォローしつつ中断のまま。	2	・ ケースにかかわらない実習の実施については遠隔のビデオ会議などで実施予定、個別SVについて遠隔での実施を検討中だが、情報の安全性が心配である。 ・ 2月末の厚労省通達を受けて、夏季休暇中の集中実習を検討中だが、京都市内は大学も多いため、難しいかも。 ・ 代替の実習担当教員による演習をどこまで実習とみなしてよいのか、判断が難しい。